

第8回シニア学びと活性化プロジェクト討議資料 2019.4.28

今後は、「シニア学びと活性化プロジェクト」(SLAP: Senior Learning and Activation Project)の初めての出版『アクティブシニア』の刊行を目指してプロジェクトを推進していきます。

このため研究会は、各個人・各グループのこれまでの取り組みの発表と再検討を行う前半部の「実践検討」と執筆の作法やスキルや原稿の構成法を学ぶ後半部の「出版準備」の2部体制で行うこととなります。

A. 実践検討

プレゼンテーション形式

●前提条件

自己の実践認知を外化させ承認を受ける。と同時に、ツーループ回路で他者の意見やアドバイスと交流し、実践を見直し、深化拡大させる。

参考

① (米ソ間の人工衛星競争の反省から生まれた) ブルーナーのスパイラルカリキュラム

② (生涯学習における大人の学習 [=アンドラゴジ-*andragogy* by E. ノールズ]: 主体的学習であり高次アクティブラーニングでもある) 自己決定・創造型学習

アクティブラーニングの学習過程

能動的学習



学習者主体の教育

●内容

- ①実践の概要、動機、目的、方法、経緯を示す。
- ②先行理論や先行実践と比較し、独自性を示す。
- ③具体的な遂行事例を示す。
- ④成果を示す（できる限り、実証的データ、質的变化、量的変化、関係性変化、心理的变化などを客観的に明示する）。
- ⑤今後の課題、展望を示す。

B. 出版準備

●予定タイトル『アクティブシニア（Active Senior）』

主執筆者は4, 5名に限定されるがコラム欄を設けて計8名ぐらいで執筆できるようにする。

編者 日本人間関係学会研究委員会（占部慎一、多田哲雄）

●内容

I 部 理論編

SLAP の目的・意義・価値

戦略と方法

実績

II 部 実践編

1) 分野

傾聴、保育、教育（日本語講座、私塾、大学教育）、落語等から3～4分野

2) 実践

取り組んできた実践について

- ・動機、目的、方法、内容を明示する。
- ・文化的意義、意味、価値などを深く掘り下げ考察する。
- ・対人援助度、社会的援助度、社会的重要度、必要度などについて言及する。

- ・ 共感性、同意性、当事者性への深慮、関係づくり等の視点を大切にする。
- ・ 過去の取り組み（先行研究）との比較検討、傍証性を必ず踏まえる。
- ・ 方法の普遍性（一人よがりに陥らない）、汎用性、独自性を表記する。
- ・ ストーリー性（導入、展開、山場、まとめの配列）感動、共感を大切にする。
- ・ 効果・成果を明示する。

裏付けとなる証拠（エビデンス）を実証するもの：量的（データ、数値、臨床数等）もしくは質的（臨床像の変化、認知や行動変化、対人関係の変化、志向や展望の変化、生活やライフスタイルの変化等）を必ず明記する。

3) 留意点

- ・ 人権に配慮し倫理審査を受けなければならない。

占部慎一